

## 青山地区市政懇談会 議事録

- 1 日 時 平成30年11月17日  
午後6時00分～8時15分
- 2 場 所 青山公民館2階中会議室
- 3 参加者 青山地区 26人  
市 27人（市長、副市長、副市長、教育長、総合政策部長、総務部長、市民生活部長、健康福祉部長、産業振興部長、都市整備部長、上下水道部長、議会事務局長、消防長、教育総務部長、教育振興部長、危機管理課長、企画政策課長、総務課長、生活環境課長、環境課長、観光振興課長、道路河川課長、プロジェクト推進課長、都市政策課長、交通政策課長、教育・保育課長、生涯学習課長）  
オブザーバー 5人

### 4 内 容

- (1) 地区からの意見・提言及び市からの回答  
別紙のとおり
- (2) 意見交換  
ア 市政への一般意見について

#### 【市 長】

多くの事業が白紙になったという意見である。三木サービスエリア近くの大型集客施設については、税金を70億円投じて実施しようとしたもので、地権者が居所不明の方を含めて120人もおられる中で、すべての土地を買い取るという計画であった。これは非常に困難な計画であり、また市の財政的な問題もあったため断念した。ごみの民間委託についても白紙とした。当時から民間ありきでいいのかという意見もあったところであり、市内部で検討を重ねた結果、市の責務、また、費用についても民間で行うより市で行うほうが安いという試算が出た。さらに、近隣市と一緒にすることも検討したが、三木市の施設更新時期の関係から、三木市単独で行うこととした。緑が丘駅前の開発については、空き家がある中で、2億円以上の税金を投じてマンションを建設する計画は

白紙とした。市の若手職員の検討会で出たホテルの誘致案を中心に検討しているところであり、今年度中に結論を出す。市民活動支援金については、いままでしっかりと審査を行わずに交付していた実態があるので、見直すこととした。市民活動支援金の見直しにより、高齢者対象のサロンについては健康福祉部、花植えの活動については都市整備部など、各担当部署において新たな支援制度を検討しているところである。なお、審査により、すべての団体に交付されるわけではない。敬老祝金の見直しについては、高齢化社会の中で、77歳に支給すべきなのかという思いがある。県内で77歳に祝金を支給している市は、29市中8市のみである。また、敬老祝金を廃止している市も5市ある。このような中で敬老祝金の減額の提案をしたものである。国民健康保険税については、一般会計から赤字分を繰り入れている状態であり、税の公平性からみてこれで良いのかという状況である。そこで、税率を兵庫県内の平均に合わせるとすれば20%の引上げとなるところを、9%の引上げとしたものである。引上げ後の国民健康保険税でも北播磨地域では最も安く、兵庫県内では5番目に安い状況である。

## イ デイサービス、多世代交流施設と青山公民館北側空地利用について

### 【青山地区】

市の回答があっさりしたものであったので、驚いている。デイサービスセンター、多世代交流施設の整備については、青山地区からの新しい取組の提案である。市では富山型デイサービスを取り上げており、これをさらに発展させたもので、デイサービスに来られる方と子どもたちや保護者、その他元気な高齢者も含めてさまざまな交流ができる新しい取組をしてはどうかという提案である。単なるデイサービスセンターの整備ではなく、新しいことをやっていこうという提案である。市の総合計画と同様、20年先、30年先をにらんだもので、市の将来の方向性も踏まえたものである。この取組が健康寿命を延ばすことにもつながると考える。緑が丘、青山地区は空き家率も低く、ここで長く住み、生涯を終えたい

という人が多い。そういうことも踏まえ、デイサービスセンターを設置し、子どもも一緒に交流できるようなかたちがいいと考えている。青山地区には公民館北側に土地があり、交通の便も良い。志染地区、緑が丘地区との交流も可能な立地である。子どもたちやそのお母さんも含めた交流ができないかと考えている。このような趣旨を理解いただいていないのではないかと考えている。人口減少の中で、高齢者は増えていく。緑が丘、青山地区では今後爆発的に高齢者が増えていく見込みであり、健康寿命を延ばすという方向性に沿う取組である。青山地区では、65歳以上の15%弱の方が老人クラブに加入しており、加入されていない方が多い。集団に入ることを好まれない方も多く、夫婦で家にいる方も多い状況で、そういう方を外に引っ張り出すためにも新しい取組が必要である。

#### 【副市長】

趣旨に沿った回答になっていないことは申し訳ない。青山地区で活用できる土地としては、公民館北側空地と青山7丁目がある。デイサービスセンターひまわりについては、老朽化が進んでおり、来年度予算に建替えのための設計費を計上し、建設場所の検討もした上でその翌年度以降に工事に取りかかる予定である。また、大和ハウスが青山7丁目の土地の一面にらんを栽培するためのビニルハウスを整備し、地域の高齢者の生きがいつくりにつなげる計画があると聞いている。多世代交流施設については、貴重なご意見として、総合計画の中でも考えていく。

#### 【青山地区】

デイサービスセンターひまわりにはときどき訪問するが、利用者でいっぱいである。公民館北側に新たな施設ができるのであれば理想であるが、青山7丁目の活用も含めて、デイサービスセンターに併せて多世代交流もできるような施設を考えていただきたい。新たな施設が難しいのであれば、デイサービスセンターひまわりの増築も合わせて考えていただきたい。また、民間のデイサービスセンターも増えており、一戸建て住宅を改良してデイサービスを実施しているところがある。市としてはどういう基準で設置を認めているのか。

**【副市長】**

デイサービスセンターひまわりの利用者の範囲は緑が丘地区、青山地区を考慮しており、改築案については、いまの規模のままでいいのかも含めて、利用者を受け入れられるように設計を考えたい。また、緑が丘地区、青山地区も空き家が増えている。空き家を今後どう活用するのか、市全体の空き家の活用計画を策定しているところである。空き家の活用といっても、農村部と住宅地では活用の方法が違ってくことも考慮して、危険な空き家への対応も含め市全体の計画を策定したい。

**【健康福祉部長】**

空き家等を活用した民間のデイサービスについては、市に届出をして許可しているものであり、市が引き続き監査していく。

**【青山地区】**

青山地区では、青山ビジョン委員会を立ち上げたころから、まちづくりについて真剣に考えようということで協議を進めてきた。その中で、青山地区にデイサービスセンターを整備していただきたいという話であった。しかしながら、市はデイサービスセンターひまわり 1 か所で考えているとのことである。平成9年に市でシミュレーションをし、それから20年間、デイサービスセンターひまわりは市のシミュレーションどおりの利用者数で、キャパも問題ないのか。青山地区では、今後高齢者の方が転入してくることは少ないので、高齢者数を予測することは可能である。そのあたりも考えてシミュレーションできているのか。また、設備の老朽化と言っているが、キャパオーバーなのではないか。多世代交流施設については、青山ビジョン委員会やまちづくり協議会でも協議したが、今後まちづくりを進めていくのに行政に依存してはダメだということは共通認識している。その中で、まちづくりの拠点となるものを造っていただきたいという意見となった。

**【健康福祉部長】**

高齢者は今後10年を目途に2,000人単位で増えていく見込みである。国は公的な介護事業から撤退し、市へ事業

を移管している。市のデイサービスセンターについては、青山地区から近い志染のデイサービスセンターには利用の空きがある。民間のデイサービスセンターも受入れのキャパがある。また、健康寿命を延ばすために、みつきい☆いきいき体操にも取り組んでいる。デイサービスを受けたいときにいつでも受けることができるような体制を整備することは難しいが、高齢者の人口を推計して、受入れのキャパについて各事業所と協力していく。なお、高齢者の人口推計及びそれを踏まえての介護サービスの提供については、別の機会です丁寧の説明させていただく。

**【市民生活部長】**

青山ビジョン委員会において、平成28年度の資料に多世代交流施設の要望を市に出していこう、まちづくり協議会を中心として協議していこうという記録が残っている。青山公民館は子どもがたくさん利用され、大変にぎわっている。公民館としてもロビーを開放したり、大会議室を開放したり、たくさんの方に利用いただけるよう努力している。公民館は社会教育施設であるとともに、地域コミュニティの核でもある。また、各丁目の集会所なども活用しながらコミュニティづくりに取り組んでいただきたい。各丁目の集会所の活用状況もお聴きしたい。

**【青山地区】**

各丁目の集会所の利用率は低い。各丁目の定例会など週に1回、利用の多いところでも週に3回程度の利用にとどまっている。その理由は、管理者がいないことがあげられる。管理者がいないので、行きたくても行けない状態である。単なるデイサービスセンターでなく、世代間交流を兼ねた、自由にいつでも利用できる施設を整備していただきたい。各丁目の集会所とはイメージが違う。

**【副市長】**

介護保険制度がスタートしたときに、阪神間では民間が介護サービス事業所を立ち上げたが、三木市では行政が中学校区ごとにデイサービスセンターを設置した。これは当たり前ではなく、三木市ならではの取組である。三木市では、市が整備し、社会福祉協議会が運営する形態としており、市と社

会福祉協議会で市全域をカバーしている状況である。現状では、キャパ不足でサービスが受けられないということはない。多世代交流施設の提案については、現在はハコモノをどうするのかという時代である。必要性は認識しているが、例えば建物は建てるが運営はどうするのか、周辺地区との交流はどうするのかなど課題があることも踏まえ、地域と一緒に考えていきたい。

#### 【青山地区】

三木市は児童館が少なく、子どもが室内で遊ぶところがない状況である。子育て世代にとっては交流施設があればよいという意見が多い。小野市には、ひまわりの丘公園に児童館があり、市外からも多くの人を訪れる。児童館のように子どもが遊べるところがデイサービスセンターに併せてあればよい。志染のデイサービスセンターは立派に改修され、細川地区にも整備されたが、青山地区にはない。児童館に類似するものを整備していただきたい。

#### 【副市長】

小野市は、ひまわりの丘公園に児童館を整備するまで児童館がなかった。児童館の機能については、みなさんそれぞれ思いがあると思う。ご要望されている児童館にどのようなイメージを持っているのか、今後協議する必要がある。

#### 【青山地区】

今年度からまちづくり協議会の子育て部会が、公民館で子育てママの交流の場として月に1回月一カフェを実施している。青山地区に子どもをどう引き込んでくるか、若い世代が住みよいまちにするにはどうすればよいかを考えて、月一カフェをやってみようと子育てママが集まって実施している。今年の夏は猛暑で外で遊べない状況だったので、子どもを見ながらお茶を飲んだりして子育てママ同士の交流ができる場所があつてうれしいという声も聞いている。毎回場所の準備が大変で、そのための施設があればもっといいものができると感じており、みなさんが多世代交流施設を待ちわびている。多世代の方がお茶を飲んでいただける場所として、発展させたいとも考えている。市の支援をお願いしたいと考えており、新しい施設ができないのなら、公民館の増築など

も検討いただけないか。三木市のためにがんばりたいと考えており、検討をお願いしたい。

**【健康福祉部長】**

地域で子育て支援の取組をされているという情報を子育て支援課に提供いただき、市も一緒に協働していきたいと考える。また、子育て支援に関する補助制度もあるので、その活用もご検討いただき、子育て支援課にご相談いただきたい。

**【青山地区】**

ほっぺは子育ての拠点として、お母さんがいつでも来ることができる場所を自主事業で運営している。青山地区、吉川地区、コープこうべの緑が丘店、志染店や加佐で活動を行っている。加佐が最も参加者が多いが、引っ越していかれる方が多く、定住される方が少ない。青山地区は、一生住みたいという思いで引っ越してこられた方が多い。そういう思いで青山に来られたお母さんと子どもたちのために、力を貸していただきたい。

**【健康福祉部長】**

ほっぺはいろいろ取り組まれており、ほっぺの活動で助かったという声も聞いている。子どもたちの育ちの中で、高齢者も元気な子どもたちを見て元気になるような状況もある。また、市民活動支援金に代わる支援策として、高齢者のサロンの中に子どもを巻き込むかたちも含めて検討したい。子どもたちの身近なところで活動をされている団体の意見も聴きながら、世代を超えた取組として進めていきたい。

ウ 青山地区の公共交通（路線バス、循環バス）利便性改善について

**【青山地区】**

緑が丘地区、青山地区の循環バスは緑が丘地区、青山地区の財産であると考えているが、乗車率が低い。利便性の改善のため、生活道路を走らせることはできないか。また、路線バスのルートと重なっても、公民館やイオン、コープなどの主要な施設を回れないか。さらに、青山1丁目に停留所がないので、ぜひ停留所を作っていただきたい。生活道路を回っていただくと、大変便利になる。緑が丘町公民館、青山公民

館は利用者が多く、これらをバスで回っていただければ、バスの利用者も増えるのではないか。これらの取組をやってみて、利用者が増えなければやめればよい。

**【都市整備部長】**

生活道路に入れるかどうかは道路の幅員によるため、バスが通れるのか、曲がれるのかを十分に確認する必要がある。また、いろいろな箇所を回るとなると乗車時間も長くなるため、適度な箇所を回る路線としたい。もっと要所を回るような路線としてほしいという要望であるが、青山から緑が丘の幹線道路にはバス事業者の自主運行路線が走っているため、バス事業者と客を取り合ってもいけないことから、十分に意見を聴いて見直しをしたい。

**【青山地区】**

小野市のらんらんバスは、10人弱ぐらいの定員のバスで小野市の隅々を回り、停留所も多い。三木市でも同じようにできないか。

**【都市整備部長】**

らんらんバスは週に2日で、1日に2便だけの運行である。小野市は市域が広くないので、路線も組みやすい。三木市は細長く、市域も広い。小野市は補助を出してバスを走らせている路線がなく、バス事業者の自主運行路線だけである。三木市の方がバス路線は充実している。

**【青山地区】**

平成31年3月を目途に公共交通網計画の見直しをするとのことであるが、地域の声をどう反映するのか。高齢者や病院などに行かれる方でバスを利用されている方の声を聴いていただきたい。また、バス停に雨除けを設置していただきたい。バス事業者に言っても無駄であるので、こういう要望があるということを市に認識いただきたい。

**【都市整備部長】**

公共交通網計画の見直し案ができた段階で意見交換会を開催したいと考えている。

エ 緑が丘駅前開発について



### 【青山地区】

市長が代わったが、市の施策でいいものは続けていただきたい。例えば、敬老祝金やみつきい夏まつり、緑が丘駅前の開発など。緑が丘駅前の開発は、長年の課題であった。市長が代わって方針が変わったのでは、三木市も大変である。神戸電鉄粟生線の活性化には緑が丘駅前の活性化しかない。緑が丘駅前が活性化すれば、青山地区にとっていいことであるのに、住民は残念がっている。ぜひ緑が丘駅前の開発を続けていただきたい。

### 【都市整備部長】

緑が丘地区市政懇談会でも緑が丘駅前の開発についての意見をいただいた。現在、ホテルとして整備する案を中心に検討しているところである。ただし、市がやるべき事業なのか、民間がやるべき事業なのかという議論もある。駅前については用途地域を変えているので、土地の利用が進んでいくかもしれない。いただいたご意見も参考にして検討し、本年度中に方針を決定する。

## オ 緑が丘東幼稚園の存続について

### 【青山地区】

自分たちの子どもに青山に戻ってきてほしいと願い、子育てに関する活動に取り組んでいる。青山地区では多くの子どもが緑が丘東幼稚園で育っている。平成27年頃に民間の認定こども園を推進する流れがあり、緑が丘幼稚園も民間の認定こども園となった。市の回答は、平成35年度末に閉園するというもので、同じく回答に「就学前教育の充実に努める」という部分とギャップがあると感じる。子どもが青山に戻ってきてても、幼稚園がない状態では魅力がない。民間の認定こども園はたくさんあるが、青山地区では公立幼稚園を望んでいる。地域と膝をつきあわせながら話をしたうえであれば仕方がないとも思うが、市の回答にがっかりしている。

### 【青山地区】

幼稚園によって、人とのつながりやコミュニティのつながりを培っている面がある。20年、30年先を考えたときに、コミュニティをどう維持するのかが最も重要である。幼稚園

は地域とのつながりがあり、老人クラブなど地域も関わっている。昔は、コミュニティのつながりがあった上で、遠い幼稚園、保育園に行ってもつながりがあった。今は、つながりがなくなり、その中で遠くの幼稚園、保育園に行って、小学校に戻ってきたときにつながりがなく、悩んでいるお母さんもたくさんいる。公立の施設がなくなってしまうと、選択肢がなくなる。将来的に三木市には公立の施設が1か所しか残らないということは、行政が子どもたちを育てる気がないと受け取れる。行政が子どもたちを育てていくと言っていたら、子育て世代は三木に来てよかったと感じる。公立の幼稚園は、先生もすばらしく、保護者同士の仲も良い。毎月行っている月一カフェも幼稚園のつながりである。幼稚園を一度廃園すると、新たに作るのは困難である。いままで築き上げた幼稚園教育、培ってきたコミュニティのつながりをもう一度考えていただきたい。また、閉園前に市から説明をしていただけるとの約束であったが、説明はしていただけるのか。

#### 【教育振興部長】

公立幼稚園の良さは認識している。公立幼稚園が愛されているのは、幼稚園で培ってきた教育の基本姿勢にあると感じている。現在、夫婦共働きが増え、少子高齢化などの中で、実態として3～5歳児で幼稚園に通わせるニーズが低くなっている。幼小連携の取組の発表の際に、民間の認定こども園の先生がたくさん来られた。公立幼稚園が培ってきた教育の良さに気づき、その中で公立幼稚園の良さをしっかりとつないでいくことが今後重要である。また、閉園前には、説明させていただく。

#### カ 三木市の将来について

##### 【青山地区】

このたびの市政懇談会での地区の意見・提言は、住民の思いをまとめて市へ提出したもののだが、さらっとした回答が多く、意見を聴くだけで時間稼ぎのための会のように思える。地区からの意見・提言の本当の意味を理解して回答いただいているのか。三木市は今後人口が減少し、このままでは共倒

れとなる。市長が交代し、方向転換をして三木市がつぶれてしまわないようにかじ取りをしてもらいたい。今日の市の回答では三木市の将来が見えない。

キ 青山7丁目の開発について

【青山地区】

青山7丁目の開発について、大和ハウスは団地再生のモデルとして取り組みたいと言っていたが、整備されるビニルハウスの位置も変更があったりして不安である。現在、青山7丁目は放ったらかしの状態で、草が伸び、道路沿いもゴミだらけである。大和ハウスが事業を進めることとなるが、市も管理、監督をお願いしたい。大和ハウスが進める事業の内容、目標を市が把握して、目標管理、日程管理をしていただきたい。その上で、まちづくり協議会と市と大和ハウスが一体となって、青山7丁目での多世代交流施設や住宅の開発などの構想について、協力して進めてもらいたい。

【副市長】

思いは同じである。民間が開発するといっても、市としてもどのように地区が良くなっていくのか、できるだけ一緒に取り組んでいきたい。

ク みっきい夏まつり開催地変更について・災害時の援護体制の新しい取組について

【青山地区】

なぜ、みっきい夏まつりの会場変更をされようとしたのか。青山地区には、旧市街地のような屋台を練り歩く祭りが無い。みっきい夏まつりを立ち上げた際は大変で、地域の皆さんで知恵を出し合って協力した。来年度も三木総合防災公園で開催されると聞いて、感謝している。また、今年は台風が多く来て、風で電柱が道路に倒れ、交通整理も行った。停電もあり、関西電力や市役所に連絡してようやく復旧した。青山地区は災害のないまちだと思っていたが、今年は被害があった。災害時は要援護者の支援、自主防災組織や民生委員などの活動が必要である。以前に命のカプセルを要援護者に配ったが、亡くなった方やどこにあるのかわからない方もおられる。災

害時の支援体制や救護体制は大事なことであるので、今後の検討をお願いしたい。

**【青山地区】**

災害時の支援については防災訓練でも取り組んでいる。自治会役員の入れ替わりがあり、防災について知っている人が増えていったいいことだと思う反面、同じ人が関わることによって防災についてよく知っている人がいるメリットがあると感じることもある。地域で防災訓練に取り組んでいるが、災害時には中学生や高校生がとてもいい支援者になると考えるので、地域としては連携したいと考えている。中学生、高校生と自治会と一緒に防災訓練を行ってはどうか。

**【危機管理課長】**

早急に防災について協議する場を設けたい。

**【青山地区】**

今年の台風の際には自主避難所が開設された。風雨の強い中で、家の中の方が安全なのに避難所に来られた方があり、非常に危険であると感じた。避難所が開設されれば、高齢者などは避難しないといけないと考えてしまう。避難所について、きちんと伝達できていないのではないか。

**【危機管理課長】**

本来、緑が丘町公民館及び青山公民館は自主避難所としては開設しないが、自主避難のための避難所を開設してほしいとの声があったので、自主避難所として開設した。

**【青山地区】**

市が発行している防災マニュアルと違う運用であった。地区としてもその背景を知らなかったなので、事前に連絡、調整していただきたい。

**【青山地区】**

避難所に関して言えば、青山公民館の大会議室は災害時にガラスが降ってくる恐れがあり危険であると感じている。

**【青山地区】**

各公民館に発電機を置いているが、小さい発電機しか置いていない。避難所では、夜の暗さは不安である。発電機にもお金をかけていただきたい。また、志染バイパスの横断歩道が消えており、危険である。ひし形の表示も消えている。安

全を守るために改善をお願いしたい。

**【都市整備部長】**

横断歩道は警察の所管であるので、警察に要望していく。

**【副市長】**

災害時の明かりは最低限のものとするのがベースである。非常時には電池のランタンを使用していただきたい。しかしながら、ご意見をいただいたので、大きい発電機を設置するかどうか、どれくらい費用がかかるのかも含めて検討する。

ケ スマートインターチェンジの計画について

**【青山地区】**

淡路のスマートインターチェンジが認定されたとの新聞記事を見た。三木市でもスマートインターチェンジの計画がある。淡路では、高速道路と商業施設をつなぐ道路は企業が整備して自治体へ無償譲渡する計画である。三木市の場合、小野の産業団地にメリットがあるのに小野市は計画に参加していない。三木市にはあまりメリットがないようにも感じている。また、淡路の認定の新聞記事では、淡路以外に三重県での認定と全国で2件の認定であるとのことである。全国で2件の認定しかないようなものを、三木市が急いで行う必要があるのか。三木市が全部お金を出して進めるとも聞いている。急がずにやってもらいたい。

**【プロジェクト推進課長】**

淡路の件は民間直結型と言われるスマートインターチェンジであると思われるが、三木市で計画しているのは既存の道路につなぐ通常のスマートインターチェンジである。民間直結型は民間施設に直接行くためのもので、費用も民間が負担する。

**【都市整備部長】**

整備費用については、三木市が全額負担するわけではない。ETCのゲートまでは高速道路会社が費用を負担し、ゲートから一般道路までは自治体が費用を負担する。その費用については、国の補助金も活用できる。

コ 生活安全推進委員会について・学校再編について・若手職員との意見交換について

**【青山地区】**

青山地区の生活安全推進委員会に市の職員も出席し、意見を言っていたきたい。また、警察の方も昨年から出席されなくなったので、出席いただくよう市から警察に要請していただきたい。先ほど、緑が丘東幼稚園の話があったが、現在学校再編の話が進められている。子どもの数の減少の話ばかりだと保護者も不安を感じる。統廃合は仕方がないと思うが、統廃合されたときに子どもたちがどんな学校に行くのかという夢のある話や地域との連携について協議していきたい。さらに、緑が丘駅前の開発の件で、若手の市職員の提案の話もあった。若手の市職員と住民とで夢のある話ができる場ができないか。

**【生活環境課長】**

生活安全推進委員会については、市の職員も必ず出席するようにする。警察の出席については、地域から話をしていただきたい。

**【教育長】**

学校再編については、子どもの数が少なくなっているのが起因となっているが、子どもたちにとって最も良い教育環境はどのようなものなのかということを考えるきっかけにさせていただければと考えている。農村部では、1学年が10人未満の学年が出てきている。私たちの子どもの世代が、三木市に戻ってくるような教育環境としたいと考えている。子どもたちの横のつながりが少なくなっている中で、小中一貫校や義務教育学校など、9年間の縦のつながりで子どもたちを支えていくような学校のあり方も視野に入れて検討している。今後とも、地域のみなさんと議論していきたい。

**【市民協働課長】**

緑が丘駅前の開発について、20代、30代による若手職員の意見交換会を実施した。固い議論にならないように努め、実現不可能な意見もあったが活発な議論ができた。若手職員と地域住民のみなさんがどのように意見交換ができるのか考えていきたい。市民協議会や区長協議会、各種団体がより

主体的にまちづくりに取り組めるようにどのような仕組みでやっていくのかということが、市民協働課の大きなテーマと考えている。また、各公民館にまちづくり担当を配置しているので、まちづくり担当とも連携しながら、若手職員が地域とどう関わっていけるのか考えていきたい。